

3. 学 会 お よ び 誌 上 発 表 抄 録

1. 学会発表

(1) リモートセンシングによる三方五湖の水質解析について

吉川昌範、白崎健一

第22回環境保全・公害防止研究発表会

(1995年、横浜市)

福井県を代表する天然湖沼の三方五湖を対象に、リモートセンシングデータ(LANDSAT/TM)による水質把握の有効性を検討した。その結果、リモートセンシングデータとSS、クロロフィルa、透明度との間に良い相関関係が認められ、リモートセンシングデータを用いて各水質の推定濃度分布図が作成できることを報告した。

(2) トリクロロエチレンによる地下水の広域汚染解析事例について

坊 栄二、宇都宮高栄、山口 慎一
高田 敏夫、八木 光行

第22回環境保全・公害防止研究発表会

(1995年、横浜市)

トリクロロエチレンによる地下水汚染が地理的に隣接している3地域で発見されたが、周辺が水田地帯で調査井戸がなかったため、地下水質調査により地下水流の解析を行い、汚染の関連性について検討を行った。

地下水流の解析法として、pH、電気伝導度等10項目についてウォード法によりクラスタ分析等を行った。これらの解析結果から推定された地下水流の流向が、トリクロロエチレンの濃度分布とほぼ一致した。

(3) 都市河川の汚濁解析

坪川 博之、加藤 賢二、内田 利勝

第30回日本水環境学会

(1996年、福岡市)

水質汚濁防止対策の一環として、汚濁の著しい都市中小河川のうち敦賀市の二夜の川と井の口川で、背景調査、水質調査、事業所調査を行った。

調査結果から両河川の収支モデルを作成し、良好な照合結果が得られた。

このモデルを用いて汚濁原因の解明や将来の水質予測を行った。

(4) 三方湖の付着微小動物相と鞭毛虫類のアオコ捕食特性

石本 健治、村田 義公
稲森 悠平(国立環境研究所)

第30回日本水環境学会

(1996年、福岡市)

富栄養化湖の湖内対策としてアオコを分解、捕食する微小動物の基礎研究を実施した。

三方湖の付着板に出現した微小動物は肉質鞭毛虫類が13属、繊毛虫類が15属、後生動物が6属の計34属であり、6~10月は植物性鞭毛虫類と緑毛類とで40~70%を占めた。6~8月には *Monas guttula* を含む植物性鞭毛虫類の、9~10月には高い浄化能を有する緑毛類の優占率上昇が特徴的であった。

Monas guttula の *Microcystis aeruginosa* による捕食試験(*M.guttula* 3.0×10^3 N/ml、*M.aeruginosa* 分散株 2.5×10^6 cells/ml、Cl-50mg/l、水温20~31℃)では、有効な捕食分解が確認され、3日間(水温28℃)で95%以上の除去率を示した。いずれの水温条件でも接種後2日目まで対数増殖し、3日目以降は増殖停滞あるいは減少した。

2. 所内研究発表会

第24回環境科学センター・衛生研究所・原子力環境監視センターとの合同の研究発表会

1. 日時 平成8年2月5日(月)

9:30~15:00

2. 場所 福井県環境科学センター会議室

No.	発表演題	発表者
1	福井・坂井・丹南地域におけるスギおよびけやきの活力調査について	主任研究員 落井 勅
2	インターネットによる環境情報の提供について	山田 克則
3	河川における農業汚染実態調査	山口 慎一
4	藻類の河川水質への影響について	八木 光行
5	水素化物発生-無炎原子吸光法による砒素、セレンおよびアンチモンの逐次定量法の検討	吉田耕一郎